

科目名	建築設計製図 I						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING						
単位数	4単位	時間数	72時間	担当者	赤坂英昭		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	○ (建設会社勤務)		
対象学科・学年	建築科 1年						
授業概要	建物の概要は設計図で表現される。そのため設計図を正しく読み取る力および正確に表現することが求められる。本授業では、製図道具の使い方、線の描き方など製図の書き方を習得し、木造建築物の一般図の種類と表現方法・内容理解を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○			製図道具の使い方を理解し、使用することが出来るようになる	
	○	○				木造建築の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。	
		○	○			製図の基本に則して木造建築物の配置図及び平面図を作図することができる。	
		○	○			製図の基本に則して木造建築物の断面図及び立面図を作図することができる。	
	○	○			製図の基本に則して木造建築物の矩計図を作図することができる。		
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 建築製図 基本の基本						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~4	製図用具の説明・名入れ・線の練習・文字の練習				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	5~8	立体理解・正投図・等角図・展開図作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	9~12	木造建築物(平屋)の平面図の作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	13~16	木造建築物(平屋)の立面図・断面図の作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	17~20	配置図作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	21~24	木造建築物矩計図作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	25~28	木造建築物(平屋)の伏図(基礎、床、小屋)の作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	29~32	木造建築物(平屋)の伏図(基礎、床、小屋)の作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	33~36	木造建築物(平屋)の軸組図の作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	37~40	木造建築物(平屋)の平面詳細図・階段の作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	41~44	鉄筋コンクリート造(1)平面・断面図作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	45~48	鉄筋コンクリート造(2)立面図作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	49~52	木造建築物(平屋)模型作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
	53~46	木造建築物(平屋)模型作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。	
57~60	木造建築物(平屋)模型作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。課題は次の授業までに終わらせること。		
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○		○		30%
	課題作品		○	○			60%
	提出状況		○		○		10%
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築設計製図Ⅱ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅱ						
単位数	4単位	時間数	72時間	担当者	赤坂英昭		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○(建設会社勤務)		
対象学科・学年	建築科 1年						
授業概要	【住宅のフリープラン】各自で条件にあったフリープランを作成する 【学校・病院・劇場・映画館】等をグループにて条件に合ったフリープランを作成する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					設計する建物のコンセプトを設定することが出来る	
	○					設計した建築物の各種図面(平面・立面・断面)を作図することが出来る	
	○					1年前期に学んだ技術を使い、設計した建物の模型を作ることが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 建築製図 基本の基本						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～4	個人で小規模住宅設計に取り組む 課題説明・エスキース				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	5～8	個人で小規模住宅設計に取り組む エスキース				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	9～12	個人で小規模住宅設計に取り組む 設計製図				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	13～16	個人で小規模住宅設計に取り組む 設計製図				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	17～20	個人で小規模住宅設計に取り組む 設計製図・模型製作				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	21～24	個人で小規模住宅設計に取り組む 設計製図・模型製作				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	25～28	個人で小規模住宅設計に取り組む 設計製図・模型製作				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	29～32	グループで学校・病院・劇場・映画館などの建築設計に取り組む				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	33～36	エスキース				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	37～40	設計製図				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	41～44	設計製図				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	45～48	設計製図・模型作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
	49～52	設計製図・模型作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。	
53～46	設計製図・模型作成				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
57～60	設計製図・模型作成・プレゼンテーション				授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○		○		30%
	課題作品		○	○			60%
	提出状況		○		○		10%
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

<b>科目名</b>	建築計画 I					
<b>科目名(英)</b>	Architectural planning and design I					
<b>単位数</b>	2単位	<b>時間数</b>	36時間	<b>担当者</b>	越前純子	
<b>実施年度</b>	2021年度	<b>実施時期</b>	前期	<b>実務家教員担当科目</b>	○ (インテリアデザイン事務所経営)	
<b>対象学科・学年</b>	建築科1年					
<b>授業概要</b>	<p>社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。</p> <p>前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。</p> <p>以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等も行う予定である。</p>					
<b>授業形式</b>	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
<b>学習目標(到達目標)</b>	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○			○		建築計画とは何かを説明できる
	○			○		既存の建築計画を調査・研究している
	○			○		これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する
<b>テキスト・教材参考図書</b>	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代 参考図書:建築ガイダンス初めて建築を学ぶ人のために、コンパクト建築設計資料集成、「新建築」等の建築雑誌					
<b>授業計画</b>	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1,2	自己紹介(教員・学生)				
	3,4	シラバス説明、建築計画とは、住様式と住宅の変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	5,6	戸建て住宅 配置計画・平面の類型				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	7,8	戸建て住宅 各室の計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	9	戸建て住宅 各室の計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	10	戸建て住宅 各室の計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	11	戸建て住宅 各室の計画3・規模計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	12	戸建て住宅 各室の計画3・規模計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	13	戸建て住宅の計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。
	14	戸建て住宅の計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。
	15	戸建て住宅の計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	16	戸建て住宅の計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	17	中間テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	18	中間テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	19	集合住宅 団地計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	20	集合住宅 団地計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	21	集合住宅 集合住宅の種類1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	22	集合住宅 集合住宅の種類1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
23	集合住宅 集合住宅の種類2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
24	集合住宅 集合住宅の種類2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
25	細部計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
26	細部計画1				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
27	細部計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
28	細部計画2				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
29	細部計画3				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする	
<b>評価方法</b>	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験	○	◎			
	小テスト					
	宿題・レポート	○	◎			
	発表・作品				○	
<b>履修上の注意</b>	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。					

科目名	建築計画Ⅱ						
科目名(英)	Architectural planning and designⅡ						
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	越前純子		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目	○(インテリアデザイン事務所経営)		
対象学科・学年	建築科1年						
授業概要	<p>社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。</p> <p>前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。</p> <p>以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等も行う予定である。</p>						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標(到達目標)	言語情報		知的技能		運動技能	態度意欲	
	○		○			○	
	○		○			○	
	○		○			○	
					目標		
					建築計画とは何かを説明できる		
					既存の建築計画を調査・研究している		
					これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する		
テキスト・教材参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	3-1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷,幼稚園の計画1					
	3,4	3-1幼稚園(保育所) 幼稚園の変遷,幼稚園の計画2 / 西洋・日本建築史Ⅰ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5,6	3-1幼稚園(保育所) 各室計画/ 西洋・日本建築史Ⅱ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7,8	レポート課題①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9,10	3-2小学校・中学校 小学校・中学校の変遷/ 西洋・日本建築史Ⅲ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11,12	3-2小学校・中学校 学校の計画,校舎の計画/ 西洋・日本建築史Ⅳ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13,14	3-2小学校・中学校 新しい教育形態への対応/ 西洋・日本建築史Ⅴ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。	
	15,16	レポート課題②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17,18	7-1外部空間の把握 建築物と外部空間、外部空間の認識方法/ 西洋・日本建築史Ⅵ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19,20	7-2外部空間の把握 外部空間のスケール/ 西洋・日本建築史Ⅶ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21,22	レポート課題③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	23,24	7-2外部空間の計画手法 都市の通過空間・都市の広場/ 西洋・日本建築史Ⅷ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	25,26	7-2外部空間の計画手法 住宅地の外部空間/ 西洋・日本建築史 総括				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	27,28	後期授業総括(1~13回)、レポート課題発表①②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	29,30	レポート課題③発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする	
	評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
		定期試験	○				
		小テスト					
宿題・レポート		○			○		
発表・作品		○			○		
						評価割合	
						80%	
						10%	
						10%	
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築計画Ⅲ								
科目名(英)	Architectural planning and designⅢ								
単位数	2	時間数	36時間	担当者	越前純子				
実施年度	2021年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○(インテリアデザイン事務所経営)				
対象学科・学年	建築科1年								
授業概要	<p>社会が変化中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。</p> <p>前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。</p> <p>以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等も行う予定である。</p>								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○		○		建築計画とは何かを説明できる			
		○		○		既存の建築計画を調査・研究している			
		○		○		これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する			
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1,2	ガイダンス4-1生活圏とコミュニティー施設							
	3,4	4-2図書館 図書館の変遷					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5,6	4-2図書館 公共図書館の役割					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7,8	4-2図書館 地域図書館の計画、近代建築史					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9 10	4-3美術館 美術館の計画・各室計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11 12	4-3美術館 美術館の計画・各室計画の変遷					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13 14	4-4コミュニティーセンター、公民館					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。		
	15 16	4-5確認テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17 18	5-1高齢社会と建築計画 5-2病院 病院の誕生					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19 20	5-2病院 病院の計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21 22	5-2病院 各室の計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23 24	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25 26	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。		
	27 28	5-3確認テスト					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。		
	29 30	総括					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする		
	評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。							
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
		定期試験	○	◎				80%	
小テスト		◎	◎				10%		
宿題・レポート		○	◎		◎		10%		
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。								

科目名	建築構造力学 I						
科目名(英)	Building Structural Mechanics						
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	内山直隆		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○(構造設計事務所経営)		
対象学科・学年	建築科 1年						
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となります。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となります。この授業では、構造力学の基本となる力の考え方を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				力の合成と分解および合力を計算することができる。	
	○	○				モーメントと合モーメントを計算することができる。	
	○	○				力およびモーメントのつり合い式を立てることができる。	
	○	○				構造物の反力を計算することができる。	
	○	○				構造物の応力図を書くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1,2	基礎数学テスト					
	3,4	力の合成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5,6	力の分解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7,8	力のモーメント			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9 10	確認テスト(1)、荷重・力学モデル			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	11 12	力のつり合い			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13 14	単純梁の反力計算(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15 16	単純梁の反力計算(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17 18	片持ち梁、張り出し梁の反力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19 20	単純ラーメンの反力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21 22	確認テスト(2)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	23 24	単純梁の応力(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25 26	単純梁の応力(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	27 28	単純梁の応力(3)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	29 30	確認テスト(3)総合問題			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		○	◎				40%
小テスト		◎	◎				40%
宿題・レポート		○	◎		◎		20%
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築構造力学Ⅱ							
科目名(英)	Building Structural Mechanics II							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	内山直隆			
実施年度	2021年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○(構造設計事務所経営)			
対象学科・学年	建築科 1年							
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となります。また、天災による建物への被害が起きており、多くの方が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となります。この授業では、構造力学の基本となる力の考え方を身につける。							
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				応力の算出することができる。		
	○	○				3ヒンジラーメンの反力・応力を計算することができる。		
	○	○				トラスの軸力を図解法で算出することができる。		
	○	○				トラスの軸力を切断法で算出することができる。		
○	○				トラスの軸力を節点法で算出することができる。			
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1,2	力学Ⅰの復習				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3,4	片持ち梁の応力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5,6	張出し梁の応力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7,8	単純ラーメンの応力(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9 10	単純ラーメンの応力(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11 12	単純ラーメンの応力 ・ 確認試験1				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	13 14	片持ち梁系ラーメンの応力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15 16	3ヒンジラーメン系の反力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17 18	3ヒンジラーメン系の応力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19 20	応力図すべての確認試験2				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	21 22	トラス1(図解法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23 24	トラス2(切断法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25 26	トラス3(節点法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	27 28	トラス ・ 確認試験3				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	29 30	力学Ⅱの総まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	○	◎				40%
小テスト		◎	◎				40%	
宿題・レポート		○	◎		◎		20%	
発表・作品								
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。							

科目名	建築一般構造 I						
科目名(英)	Introduction of Building Construction I						
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	武山 茂		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○ (高等学校建築科教員)		
対象学科・学年	建築科 1年						
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				木材と木質材料について説明することが出来る。	
	○	○				木材の接合(仕口、継手)の名称と特徴について説明することが出来る。	
	○	○				木材の接合(釘、ボルト、金物)の名前と特徴について説明することが出来る。	
		○				壁倍率と壁量の算出をすることが出来る。	
	○	○				木造の各部の構造について説明することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	建築物の構成要素、構造の安定と不安定					
	3,4	建築物に作用する外力とその伝達メカニズム				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5,6	木質構造の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7,8	木材と木質材料				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	木材の接合(仕口、継手)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	木材の接合(釘、ボルト、金物)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	軸組(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	軸組(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	壁倍率と壁量				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	小屋組・確認テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	15	床組				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	16	枠組壁構法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	各部の構造(屋根、床、階段)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	各部の構造(壁、天井、開口部)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	構造 I の総まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		○	◎				40%
小テスト		◎	◎				40%
宿題・レポート		○	◎		◎		20%
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築一般構造Ⅱ						
科目名(英)	Introduction of Building Construction II						
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	武山 茂		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○ (高等学校建築科教員)		
対象学科・学年	建築科 1年						
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				RC構造の特徴について説明することが出来る。	
	○	○				RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)について説明することが出来る。	
		○				断面算定をすることが出来る。	
	○	○				鉄骨構造の概要について説明することが出来る。	
	○	○				トラス構造について説明することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	鉄筋コンクリート構造(以下RC構造)とは					
	3,4	RC構造の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5,6	RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7,8	梁・柱部材				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9 10	構造におけるひび割れ、スラブ・耐震壁				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11 12	断面算定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13 14	その他のコンクリート系構造(壁式構造)(SRC構造)(プレストレストコンクリート構造)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15 16	各部構造(陸屋根、床、階段、壁、天井、開口部)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17 18	鉄骨構造の概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19 20	鋼材の種類と性質				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	21 22	各部材の設計				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	23 24	接合(高力ボルト接合)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	25 26	接合(溶接接合)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	27 28	柱脚、トラス構造				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	29 30	構造Ⅱの総まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		○	◎				40%
小テスト		◎	◎				40%
宿題・レポート		○	◎		◎		20%
発表・作品							
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築材料 I						
科目名(英)	Building material I						
単位数	2単位		時間数	36時間	担当者	三浦文子	
実施年度	2021年度		実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○(設計事務所勤務)	
対象学科・学年	建築科1年						
授業概要	建築材料のうち、構造材料である木材、コンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				木材の物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。	
	○	○				コンクリートの物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築材料 市ヶ谷出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	建築材料とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	3,4	木材の基本的な特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	5,6	建築用木材の性質(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	7,8	建築用木材の性質(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	9 10	木質材料(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	11 12	木質材料(2) 第1章演習				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	13 14	鉄類(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	15 16	鉄類(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	17 18	鉄類(3)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	19 20	アルミニウムとその合金				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	21 22	金属の防食と防止 第2章演習				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	23 24	コンクリートの発達と利用				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	25 26	コンクリートの基本的性質(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	27 28	コンクリートの基本的性質(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	29 30	まとめ				授業ノート、プリント等の確認	
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎	○				80%
小テスト		○	○				10%
宿題・レポート		○	○				10%
発表・作品							
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築材料Ⅱ						
科目名(英)	Building material Ⅱ						
単位数	2単位		時間数	36時間	担当者	三浦文子	
実施年度	2021年度		実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○(設計事務所勤務)	
対象学科・学年	建築科1年						
授業概要	建築材料のうち、構造材料である木材料、コンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				コンクリートの物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。	
	○	○				鋼材の物理的性質、機械的性質及びその特性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築材料 市ヶ谷出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	コンクリートの調査実習				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	3,4	コンクリートの構成材料の性質(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	5,6	コンクリートの構成材料の性質(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	7,8	コンクリートの調査設計				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	9	コンクリートの欠陥				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	10	コンクリートの耐久性				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	11	コンクリートの耐久性				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	12	コンクリートの耐久性				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	13	セメントコンクリート製品				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	14	セメントコンクリート製品				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	15	非鉄金属、石材				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	16	非鉄金属、石材				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	17	ガラス、セラミック				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	18	ガラス、セラミック				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	19	左官材料、演習問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	20	左官材料、演習問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	21	プラスチック				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	22	プラスチック				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
	23	塗料・仕上げ塗材、接着剤				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事	
24	塗料・仕上げ塗材、接着剤				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事		
25	外壁パネル、インテリア材料、演習問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事		
26	外壁パネル、インテリア材料、演習問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事		
27	機能材料、演習問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事		
28	機能材料、演習問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおく事		
29	まとめ				授業ノート、プリント等の確認		
30	まとめ				授業ノート、プリント等の確認		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築施工 I							
科目名(英)	Building Construction I							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	赤坂英昭			
実施年度	2021年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○ (建設会社勤務)			
対象学科・学年	建築科・1年							
授業概要	建築施工の位置づけと建築生産の基本理念を理解する。 建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を理解する。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標		
	○	○				建築生産の仕組みを理解し、説明できる		
	○	○				請負契約から工事計画、工事管理まで理解し、説明出来る		
	○	○				建築工事を構成する様々な工種を理解し、概要を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)		
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1,2	建築生産の基本概念と着工までのあらまし 建築生産(設計と施工)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3,4	施工者を選定し、工事請負契約をむすぶ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5,6	工事に着工する(着工)①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7,8	工事に着工する(着工)②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9 10	仮設・準備工事①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11 12	仮設・準備工事③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13 14	土工事・地業工事・基礎工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15 16	確認テスト① 鉄筋コンクリート工事概説				授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと		
	17 18	鉄筋工事①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19 20	鉄筋工事②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21 22	型枠工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23 24	コンクリート工事①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25 26	コンクリート工事②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	27 28	コンクリート工事③				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	29 30	確認テスト②まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、 復習しておくこと		
	評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)出席状況+受講態度。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	○	○				50%
		小テスト	○	○				20%
		出席状況・受講態度				○		30%
	履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築施工Ⅱ						
科目名(英)	Building Construction Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	赤坂英昭		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○(建設会社勤務)		
対象学科・学年	建築科・1年						
授業概要	前期で学んだ施工Ⅰに続き、鉄骨工事以降の建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を学ぶ。また、建物完成後の業務に関しても、概要を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目 標	
	○	○				建築生産の仕組みを理解し、説明できる	
	○	○				請負契約から工事計画、工事管理まで理解し、説明出来る	
	○	○				建築工事を構成する様々な工種を理解し、概要を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	鉄骨工事(概要、工場製作①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3,4	鉄骨工事(工場製作②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5,6	鉄骨工事(工場製作③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7,8	鉄骨工事(工場製作④、現場施工①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	鉄骨工事(現場施工②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	鉄骨工事(現場施工③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	鉄骨工事(現場施工③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	鉄骨工事(現場施工③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	鉄骨工事のまとめ、確認テスト①				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	14	鉄骨工事のまとめ、確認テスト①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	屋根工事、防水・シーリング工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	16	屋根工事、防水・シーリング工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	仕上工事の考え方、左官工事、タイル工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	仕上工事の考え方、左官工事、タイル工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	石工事、建具・ガラス工事、金属工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	石工事、建具・ガラス工事、金属工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
21	内装工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
22	内装工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
23	塗装・吹付工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
24	塗装・吹付工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
25	設備工事(電気、給排水・衛生、空調)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
26	設備工事(電気、給排水・衛生、空調)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
27	設備工事(昇降機設備工事)、完成時・完成後の管理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
28	設備工事(昇降機設備工事)、完成時・完成後の管理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
29	確認テスト②、期末試験対策				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
30	確認テスト②、期末試験対策				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)出席状況+受講態度。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				20%
	出席状況・受講態度				○		30%
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築法規 I							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	亀田進之助			
実施年度	2021年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○(設計事務所経営)			
対象学科・学年	建築科 1年							
授業概要	建築法規の学習を通して、建築に関する基本的な考え方や建築の在り方について学習する。建築法規 I ではまず条文の読み方・体系・用語の定義からはじめて、具体的な建築基準(面積・採光・換気・高さ)について学んでいく。							
授業形式	講義:	○	演習:		実習:			
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。		
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。		
	○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。		
		○		○		実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。		
テキスト・教材 参考図書	建築関係法令集 法令編							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1,2	建築基準法の概要				建築基準法1条目的を一読		
	3,4	条文の読み方・法令の体系				インデックスを貼り終えておく		
	5,6	用語の定義①				建築基準法2条一項一号を一読		
	7,8	用語の定義②				建築基準法2条、施行令1条を一読		
	9,10	用語の定義③				建築基準法2条、88条を一読		
	11,12	用語の定義④				前回までの内容を復習		
	13,14	確認テスト				確認テストで間違えた内容を見直し		
	15,16	面積の算定①				建築基準法施行令2条、42条を一読する		
	17,18	面積の算定②				建築基準法施行令2条、42条を一読する		
	19,20	高さの算定等				建築基準法施行令2条を一読する		
	21,22	居室の採光①				建築基準法28条、施行令19、20条を一読する		
	23,24	居室の採光②				建築基準法28条、施行令19、20条を一読する		
	25,26	居室の換気				建築基準法施行令20条、129条の2の6を一読する		
	27,28	居室の天井高さ・床の高さ				建築基準法施行令21条を一読する		
	29,30	確認テスト				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。		
	評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)受講態度(出席状況等)。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	○				80%
		受講態度(出席状況等)				◎		10%
小テスト		◎	◎				10%	
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。							

科目名	建築法規 II							
科目名(英)	Building regulations II							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	亀田進之助			
実施年度	2021年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○(設計事務所経営)			
対象学科・学年	建築科 1年							
授業概要	建築法規に関する知識を修得し、より専門的かつ実践的な建築計画に取り組める力を養う。建築法規IIでは階段廊下・用途地域・建ぺい率・容積率などについて具体的基準について学ぶとともに、確認申請などについての手続き等についても学習する。							
授業形式	講義:	○	演習:		実習:			
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。		
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。		
	○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。		
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。		
テキスト・教材 参考図書	建築関係法令集 法令編							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1,2	階段、廊下の幅				建築基準法施行令23条を一読		
	3,4	階段、廊下の幅②				建築基準法施行令24, 25, 26, 27条を一読		
	5,6	確認申請などの手続き1				建築基準法6条を一読		
	7,8	確認申請などの手続き2				建築基準法6条、建築基準法施行規則1条の3を一読		
	9 10	構造と規模についての規定				建築基準法20条、施工令81条～88条を一読		
	11 12	用途地域1				建築基準法48条を一読		
	13 14	用途地域2				都市計画法9条を一読		
	15 16	道路概要				建築基準法42, 43条を一読		
	17 18	敷地と道路の関係				建築基準法施行令144条の2を一読		
	19 20	建ぺい率1				建築基準法53条を一読		
	21 22	建ぺい率2				建築基準法53条3項を一読		
	23 24	容積率1				建築基準法52条を一読		
	25 26	容積率2(緩和)				建築基準法52条を一読		
	27 28	容積率3(緩和)				建築基準法施行令135条の16を一読		
	29 30	確認問題				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。		
	評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)受講態度(出席状況等) (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	○				80%
		受講態度(出席状況等)	◎	◎		◎		10%
		小テスト	◎	◎				10%
	履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	JWCAD I						
科目名(英)	jwcad exercise						
単位数	4単位	時間数	72時間	担当者	三浦文子		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○(設計事務所勤務)		
対象学科・学年	建築科・1年						
授業概要	Jw-CADのコマンド操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得 用紙サイズ・尺度・寸法など製図知識の習得 木造住宅・鉄筋コンクリート造の計画・各部分の名称・構造等の習得						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○			覚えたコマンドを効果的に活用して図面のトレースを行うことができる。	
	○	○				用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールに従った正確な作図を行うことができる。	
		○	○			木造住宅、鉄筋コンクリート造の配置図・平面図・断面図を作成することができる	
		○	○			自ら用途に応じてJwCADの各種設定を行うことができる。	
	○	○			レイヤの設定、かき分けができる。		
テキスト・教材 参考図書	初めての建築CAD:学芸出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~4	JW-cadの基本操作(1)線分・矩形・中心線・複線					
	5~8	JW-cadの基本操作(2)円・円弧・接円・接点・点・ハッチ				前回の復習を行うこと	
	9~12	JW-cadの基本操作(3)文字・寸法・消去・伸縮・コーナー面取・分割				前回の復習を行うこと	
	13~16	JW-cadの基本操作(4)複写・移動・パラメトリック・多角形・測定				前回の復習を行うこと	
	17~20	作図課題1(木造住宅)①図枠作成・レイヤ設定・配置図作成				前回の復習を行うこと	
	21~24	作図課題2(木造住宅)②配置図作成				前回の復習を行うこと	
	25~28	作図課題1(木造住宅)③レイヤ設定・1階平面図作成				前回の復習を行うこと	
	29~32	作図課題1(木造住宅)④1階平面図作成				前回の復習を行うこと	
	33~36	作図課題1(木造住宅)⑤2階平面図作成				前回の復習を行うこと	
	37~40	作図課題1(木造住宅)⑥建築概要作成・印刷設定				前回の復習を行うこと	
	41~44	作図課題2(木造住宅)①図枠作成・レイヤ設定・矩計図作成				前回の復習を行うこと	
	45~48	作図課題2(木造住宅)②矩計図作成				前回の復習を行うこと	
	49~52	作図課題3(木造住宅)①立面図作成				前回の復習を行うこと	
	53~46	作図課題3(木造住宅)①立面図作成				前回の復習を行うこと	
57~60	作図課題2(鉄筋コンクリート構造)①1階平面図作成・包絡コマンド				前回の復習を行うこと		
評価方法	(1)7つの課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○		○		30%
	課題作品		○	○			60%
	提出状況		○		○		10%
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	JWCAD II						
科目名(英)	jwcad exercise						
単位数	4単位	時間数	72時間	担当者	三浦文子		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○(設計事務所勤務)		
対象学科・学年	建築科 1年						
授業概要	【鉄筋コンクリート・鉄骨造の製図】配置図の描き方 平面図の描き方 断面図・立面図の描き方 矩計図の描き方 1階床伏図・2階床伏図・1階小屋伏図の描き方 【住宅のフリープラン】各自で条件にあったフリープランを作成する						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			覚えたコマンドを効果的に活用して図面のトレースを行うことができる。		
	○	○			用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールに従った正確な作図を行うことができる。		
	○	○			鉄筋コンクリート造の配置図・平面図・断面図・短炬図・床伏図を作成することができる		
	○	○			自ら用途に応じてJwCADの各種設定を行うことができる。		
○	○			レイヤの設定、かき分けができる。			
テキスト・教材 参考図書	初めての建築CAD:学芸出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~4	鉄筋コンクリート住宅のトレース① 平面図			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	5~8	鉄筋コンクリート住宅のトレース② 断面図			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	9~12	鉄筋コンクリート住宅のトレース③ 立面図			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	13~16	鉄筋コンクリート住宅のトレース④ 仕上げ・手直し			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	17~20	木造住宅 図枠作成・レイヤ設定・平面詳細図1			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	21~24	木造住宅 図枠作成・平面詳細図2			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	25~28	木造住宅 図枠作成・レイヤ設定・立面図1			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	29~32	木造住宅 図枠作成・立面図2			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	33~36	CAD検定作図課題 1			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	37~40	CAD検定作図課題 2			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	41~44	CAD検定作図課題 3			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	45~48	CAD検定作図課題 4			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	49~52	作図課題 2階床伏図作成			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
	53~46	作図課題 2階床伏図作成 図面チェック			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。		
57~60	作図課題 1階小屋伏図作成 印刷設定、提出			授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○		○		30%
	課題作品		○	○			60%
	提出状況		○		○		10%
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築図学A						
科目名(英)	ARCHITECTURAL PERSPECTIVE I						
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	赤坂英昭		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○ (建設会社勤務)		
対象学科・学年	建築科 1年						
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要である。オーナーの希望を具体化し、絵として表現する事により、より解りやすく表現する方法です。 建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築パースの役割と意義を説明できる。	
		○	○			1消点(グリッド法)図法を使ってパースを描ける	
		○	○			2消点(グリッド法)図法を使ってパースを描ける	
		○	○			図面を使って室内のフリーハンドイメージパースを描ける	
	○	○			内観パースに着色し、カラーパースとして完成させる。		
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	概要説明 建築パースの重要性・必要性					
	3,4	内観1消点法・基本・変形				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	5,6	斜め家具の配置				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	7,8	ベッドルームの作成				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	9	和室のパース作成				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	10						
	11	リビングルームの作成				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	12						
	13	外観2消点法・基本				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	14						
	15	3階建ビルの外観パースを作成				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	16						
	17	2階建ビルのパース				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	18						
	19	2階建住宅のパースを作成 1				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	20						
	21	2階建住宅のパースを作成 2				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	22						
23	切妻住宅の外観パースを作成 1				課題は次の授業までに終わらせておくこと		
24							
25	切妻住宅の外観パースを作成 2				課題は次の授業までに終わらせておくこと		
26							
27	着色1				課題は次の授業までに終わらせておくこと		
28							
29	着色2				課題は次の授業までに終わらせておくこと		
30							
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○		○		30%
	課題作品		○	○			60%
	提出状況		○		○		10%
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	建築図学B						
科目名(英)	ARCHITECTURAL PERSPECTIVE II						
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	赤坂英昭		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○(建設会社勤務)		
対象学科・学年	建築科1年						
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要である。オーナーの希望を具体化し、絵として表現する事により、より解りやすく表現する方法です。建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○			2消点法を用いて基本的なパースが描ける	
			○			基本的なフリーハンドパースを描ける。	
		○	○			自ら設計した住宅の外観をパースにすることができる。	
		○	○			自ら設計した住宅の外観を着色することができる。	
	○	○			内観パースに着色し、カラーパースとして完成させる。		
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1,2	外観2点法 基本					
	3,4	ビルのパース作成			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	5,6	ビルのパース作成			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	7,8	フリーハンドパースの作り方			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	9	2階建てアパートのパース作成			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	10	2階建てコーポのパース作成			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	11	2階建てコーポのパース作成			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	12	陸屋根住宅のパース作成			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	13	陸屋根住宅のパース作成			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	14	切妻住宅のパース作成-1			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	15	切妻住宅のパース作成-1			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	16	切妻住宅のパース作成-2			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	17	切妻住宅のパース作成-2			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	18	自作の設計図面をパースにする-1			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	19	自作の設計図面をパースにする-1			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
	20	自作の設計図面をパースにする-2			課題は次の授業までに終わらせておくこと		
21	自作の設計図面をパースにする-2			課題は次の授業までに終わらせておくこと			
22	自作の設計図面をパースにする-3			課題は次の授業までに終わらせておくこと			
23	自作の設計図面をパースにする-3			課題は次の授業までに終わらせておくこと			
24	自作の設計図面をパースにする-4			課題は次の授業までに終わらせておくこと			
25	自作の設計図面をパースにする-4			課題は次の授業までに終わらせておくこと			
26	着色1			課題は次の授業までに終わらせておくこと			
27	着色1			課題は次の授業までに終わらせておくこと			
28	着色2						
29	着色2						
30	着色2						
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(85点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○		○		30%
	課題作品		○	○			60%
	提出状況		○		○		10%
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						

# 2020年度 学習指導進度表

科目名称： PC演習 (Excel)		2021年度 (設計事務所勤務経験)		<input type="checkbox"/> 講師
学科： 建築科	学年： 1年	予定 36 時間	実績時間	通年・ <u>前期</u> ・後期
教材	1. 教科書 <u>Excelクイックマスター2016基本編</u> (株ウイネット 出版) (株ウイネット 編著)			
	2. 教科書 <u>2016対応Excel表計算処理技能認定試験3級問題集</u> (株サティアイ) (株サティアイ 編著)			
目標	1. 表計算ソフトExcelの基本操作を修得する。 2. Excel表計算処理技能認定試験3級に合格する。			
授業に関する説明	<p>1. 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義及び実習。</li> </ul> <p>2. 成績評価の方法・基準</p> <p>(1) 成績評価はA、B、C、Dの4段階とし、C以上を合格とする。</p> <p>(2) 成績評価は以下の評価項目に基いて行う。</p> <p>&lt;評価項目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 出席状況</li> <li>② 期末テスト</li> <li>③ 確認テスト</li> <li>④ 授業中の学習態度</li> <li>⑤ 課題提出状況</li> <li>⑥ 検定取得状況</li> <li>⑦ 模擬テスト</li> </ul> <p>(3) 成績評価は上記(2)評価項目①～⑤の合計点を100点満点換算し、下記の評価基準に従って行う。なお、上記(2)評価項目⑥、⑦については、その成果により加点を行う。</p> <p>&lt;評価基準&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A：85点以上</li> <li>B：70点以上85点未満</li> <li>C：60点以上70点未満</li> <li>D：60点未満</li> </ul> <p>3. 予習・復習について</p> <p>(1) 予習の目的は、自分が分からない点を明らかにすることである。それが授業の中で解決しなかった場合は必ず質問する事。</p> <p>(2) 復習はできるだけ早く行う事。また、繰り返し行い、知識・技術の定着を図ること。</p> <p>4. 授業期間全体を通じた授業の進め方は、次ページの通り。</p>			

指 導 事 項	予定時間
1. Excelの基本	2
2. データの編集	2
3. 表の編集	2
4. ブックの印刷	2
5. 条グラフと図形の作成	2
6. ブックの利用と管理	2
7. 関数	2
8. データベース機能	2
9. Excel表計算処理技能認定試験3級問題対策	20
時間数合計	36

# 2020年度 学習指導進度表

科目名称： PC演習 (Word・PP)		2021年度 (設計事務所勤務経験)		<input type="checkbox"/> 講師
学科： 建築科	学年： 1年	予定 36 時間	実績 時間	通年・前期・ <u>後期</u>
教材	1. 教科書 30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 実教 出版 杉本くみ子 著 <div style="text-align: right;">====&gt; 1年次購入済み</div>			
目標	1. Microsoft Word、PPの特徴と操作方法を理解する。 2. ビジネス文書の入力、変更ができる。			
授業に関する説明	1. 授業方法 ・講義及び実習。 2. 成績評価の方法・基準 (1) 成績評価はA、B、C、Dの4段階とし、C以上を合格とする。 (2) 成績評価は以下の評価項目に基いて行う。 <評価項目> ① 出席状況 ② 期末テスト ③ 確認テスト ④ 授業中の学習態度 ⑤ 課題提出状況 ⑥ 検定取得状況 ⑦ 模擬テスト (3) 成績評価は上記(2)評価項目①～⑤の合計点を100点満点換算し、下記の評価基準に従って行う。なお、上記(2)評価項目⑥、⑦については、その成果により加点を行う。 <評価基準> A：85点以上 B：70点以上85点未満 C：60点以上70点未満 D：60点未満 3. 予習・復習について (1) 予習の目的は、自分が分からない点を明らかにすることである。それが授業の中で解決しなかった場合は必ず質問する事。 (2) 復習はできるだけ早く行う事。また、繰り返し行い、知識・技術の定着を図ること。 4. 授業期間全体を通じた授業の進め方は、次ページの通り。			

指 導 事 項	予定時間
1. Wordの基礎知識	5
2. 文書の作成	5
3. 文書の印刷とページ設定	5
4. 表の作成	5
5. 文章の編集	5
6. 表現力をアップする	5
7. 長文作成をサポートする	6
	時間数合計 36

# 2020年度 学習指導進度表

科目名称： ビジネスマナー		2021年度 (経理・事務職経験あり)		□ 講師
学科： 建築科	学年： 1年	予定 <u>36</u> 時間	実績 時間	(通年)・前期・後期
教材	1. 教科書 マイロード21専修・各種学校生の就職ガイド改訂版 実務出版(株)発行 就職指導研究会著 2. 経済基礎知識 プリント (自製) 3. 数学プリント (自製)			
目標	1. 就職に対する基本的な心構えを構築する。 2. 職業人として知っておくべき経済基礎知識を学ぶ。 3. 為替に関する知識を身につけ、経済ニュースへの理解を深める。			
授業に関する説明	1. 授業方法 ・講義及び問題演習。 2. 成績評価の方法・基準 (1) 成績評価はA、B、C、Dの4段階とし、C以上を合格とする。 (2) 成績評価は以下の評価項目に基いて行う。 <評価項目> ① 出席状況 ② 確認テスト ③ 授業中の学習態度 (3) 成績評価は上記(2)評価項目①～⑤の合計点を100点満点換算し、下記の評価基準に従って行う。なお、上記(2)評価項目⑥、⑦については、その成果により加点を行う。 <評価基準> A：85点以上 B：70点以上85点未満 C：60点以上70点未満 D：60点未満 3. 予習・復習について (1) 予習の目的は、自分が分からない点を明らかにすることである。それが授業の中で解決しなかった場合は必ず質問する事。 (2) 復習はできるだけ早く行う事。また、繰り返し行い、知識・技術の定着を図ること。 4. 授業期間全体を通じた授業の進め方は、下記の通り。			
指 導 事 項				予定時間
1. 教科書の第一章～第四章までを、実例と講師体験談を交えて、就職研修までに解説する。				25
2. 経済の基礎知識を自製のプリントで解説し、経済に関するニュースの理解力を高める。				11
時間数合計				36

科目名	就職実務 I					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	18時間	担当者	三浦文子	
実施年度	2021年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○ (設計事務所勤務)	
対象学科・学年	建築科 1年					
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる
	○			○		基本的な面接対応ができる
		○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある
	○	○				企業研究の方法を知っている
	○				学校求人を利用するための条件を知っている	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	就職活動における心構え / 働くということを考える 知る				強味を知る。
	2	就職活動における心構え / 自分が働く業界の形態や常識を知る				ガイドブックを使う
	3	就職活動における心構え / 業界に必要なサービスとは				
	4	就職活動における心構え / 業界に必要なスキルとは				
	5	就職活動における心構え / 作品集の価値とは				
	6	就職活動における心構え / 作品集をイメージする1				
	7	就職活動における心構え / 作品集をイメージする2				
	8	就職活動における心構え / 自分の作品集計画を見つめ直す				
	9	履歴書 / 自己分析 自己PR				
	10	履歴書 / 自己分析 得意分野 特記事項				
	11	履歴書 / 自己分析を履歴書としてまとめる				
	12	面接練習 / 面接の重要性 意味を知る				
	13	面接練習 / 入退室の練習				
	14	面接練習 / 面接練習を各自実施 履歴書の内容を話すトレーニング				
15	面接練習 / 面接練習を各自実施 履歴書の内容を話すトレーニング					
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断する。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	出席状況				◎	60%
	受講態度・意欲	○	○			30%
	課題の提出	○	○			10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする					

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)	Career Study 1B						
単位数	1単位	時間数	18時間	担当者	赤坂 英昭		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○(建設会社勤務)		
対象学科・学年	建築科 1年						
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる	
	○			○		基本的な面接対応ができる	
		○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある	
	○	○				企業研究の方法を知っている	
	○				学校求人を利用するための条件を知っている		
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	企業講話 実践的な課題の提案 *メールアドレスの確認と管理					
	3,4	就職活動に関する心構え ものづくり系の仕事とは					
	5,6	就職活動に関する心構え 業界で必要なサービス精神					
	7,8	就職活動に関する心構え 必要なスキル					
	9	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション1					
	10	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション2					
	11	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション3					
	12	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション4					
	13	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション3					
	14	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション4					
	15	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション4					
	16	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション4					
	17	・履歴書の書き方 ・メールアドレスの管理					
	18	・履歴書の書き方 随時添削 ・メールアドレスの管理					
	19	・履歴書の書き方 随時添削 ・メールアドレスの管理					
	20	・履歴書の書き方 随時添削 ・メールアドレスの管理					
	21	・履歴書提出と添削					
	22	・履歴書提出と添削					
	23	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策					
24	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策						
25	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策						
26	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策						
27	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策						
28	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策						
29	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策						
30	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策						
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	一般教養 I						
科目名(英)	Business manner						
単位数	1単位	時間数	18時間	担当者	三浦文子		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○ (設計事務所勤務)		
対象学科・学年	建築科・1学年						
授業概要	ビジネスシーンで、良い人間関係を築くための意思伝達スキルを学び、職場や社外でそれぞれの人間関係に応じた話し方、聞き方を身に付けることが仕事の成果につながります。また、来客対応、電話対応、冠婚葬祭など業務に必要なマナーや知識、技能を習得し、社会人としてのたしなみ、幅広いビジネスシーンに対応できる振る舞い方を身に付けます。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
					○	サービス接客検定3	
	○	○				社会人としての言葉遣いを理解し、話すことができる。	
		○				ビジネス文書について理解し、作成することができる。	
		○				封筒の書き方・郵便の知識・冠婚葬祭について習得する	
			○			基本的なビジネスマナーを身に付け、振る舞うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・公益財団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3級 ・早稲田教育出版 サービス接客検定3級 実問題集第39回～43回						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	サービス接客検定対策① 演習および解説 第47回					
	2	サービス接客検定対策② 演習および解説 第47回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	3	サービス接客検定対策③ 演習および解説 第46回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	4	サービス接客検定対策④ 演習および解説 第46回				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	5	一般常識トレーニング				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	6	一般常識トレーニング				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	7	一般常識トレーニング				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	8	一般常識トレーニング				過去問題プリントを事前に解答しておくこと	
	9	来客対応1 接遇の意義と重要性を理解する 接遇の心構え				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	来客対応2 来客対応の流れ 来客対応の基本用語				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	来客対応3 名刺の受け方・渡し方・取扱い				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	来客対応4 ロールプレイング テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	電話対応1 電話の特性 電話話法のポイント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	電話対応2 電話のかけ方・受け方 演習プリント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	学習のまとめ — 今期学んだことの復習、理解を深める				定期試験に備えて、復習をしておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				75%
	ロールプレイングテスト	○	○				15%
	態度・意欲・出席				○	○	10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	キャリア教育						
科目名(英)							
単位	1単位	時間数	17時間	担当者	赤坂 英昭		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○ (建設会社勤務)		
対象学科・学年	建築科 1年						
授業概要	企業が求める人材を把握し、就職活動を円滑に進めるための意識付けと、求職票・履歴書の具体的な書き方や面接対策など、そのまま就職活動に活かせる実践的な演習を中心に授業を進めていく						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○	○	自己分析を基に、自己PRをまとめることができる	
				○	○	企業の目線を意識した志望動機を書くことができる	
				○	○	面接時の基本的なマナーが身につく、問題なくふるまうことができる	
				○	○	面接官の質問に対し、問題なく受け答えができる	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動のための準備 ガイダンス					
	2	求職票の書き方 「自己PR」の書き方				自己の強みと弱みについて自分なりに自己分析しておくこと	
	3	求職票記入 下書き・添削					
	4	履歴書の書き方 「学生時代に力を入れたこと」「志望動機」など				自己の学生時代の経験、また希望企業への志望動機を自分なりに考えておくこと	
	5	求職票受付面接について 概要説明					
	6	求職票受付面接練習 入退室・立ち居振る舞い・おじぎ				授業内で学習したマナーは日常生活の中でも意識して行うこと	
	7	求職票受付面接練習 面接官の視点・第一印象について					
	8	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方 ①					
	9	求職票受付面接練習 質問と答え方、正しい敬語の使い方 ②					
	10	求職票受付面接練習 通して実践練習					
	11	求職票受付面接練習 通して実践練習					
	12	求職票受付面接練習 通して実践練習					
	13	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加				参加する企業について、事業内容、事業規模等事前に調べておくこと	
	14	企業研究 実際に合同企業説明会・セミナーに参加					
15	いろいろな報告書の書き方 ビジネス文書の作成				学んだ文書の書き方について復習しておくこと		
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		60%
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				10%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	福祉住環境						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	越前純子
実施年度	2021年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○(インテリアデザイン事務所経営)
対象学科・学年	建築科1年						
授業概要	福祉住環境コーディネーター3級試験対策の問題演習を通して、福祉住環境コーディネーターの知識の習得を図る						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					福祉住環境整備の重要性・必要性を理解できる。	
		○				高齢者の健康と自立に関する知識がある。	
		○	○			バリアフリーとユニバーサルデザインを考えることができる。	
		○	○			住まいの整備のための基本技術がある。	
	○	○			ライフスタイルの多様化と住まいをデザインすることができる。		
テキスト・教材 参考図書	福祉住環境コーディネーター検定試験3級 公式テキスト 東京商工会議所編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1,2	第1章 暮らしやすい生活環境をめざして				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3,4	第2章 健康と自立をめざして				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5,6	第3章 バリアフリーとユニバーサルデザイン				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7,8	第4章 安全・安心・快適なすまい				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9 10	第5章 安心できる住生活とまちづくり				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11 12	第1章 振り返り中間テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	13 14	第2章 振り返り中間テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	15 16	第3章 振り返り中間テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	17 18	第4章 振り返り中間テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	19 20	第5章 振り返り中間テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	21 22	過去問題・予想問題①				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	23 24	過去問題・予想問題②				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	25 26	過去問題・予想問題③				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	27 28	過去問題・予想問題④				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	29 30	直前模擬試験				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	評価方法	本検定試験合格者は点数に関わらずA(85点以上) B(70以上) C(60以上) D(59点以下) また、不合格者は模試、中間テスト、平常点により総合的に評価する。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
検定試験		○	○				90%
直前模擬試験		○	○				5%
中間テスト		○	○				5%
履修上の注意	出席が80%に満たない場合は、単位を認めない。						